

# 株式会社ジェイコム東京北

## 放送番組審議会 議事録

平成 28 年度（2016 年度）株式会社ジェイコム東京北番組審議会は、2017 年 3 月 30 日(木)ジェイコム東京北局にて開催された。

### 【放送番組審議会委員】

#### ご出席

竹腰 里子 様  
尾花 秀雄 様  
越野 充博 様  
雲出 直子 様  
根木 真代 様  
奥山 峰石 様

#### ご欠席

大前 孝太郎 様

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

### 【質疑応答・意見交換】 進行：竹腰会長

#### ■ J:COM チャンネルの広域番組について

##### 委員

「東京生テレビ」、「ジモスポ TOKYO」といった広域番組で、北区の情報を観たことがない。

バランス的に偏っているように感じるが、どのような情報のセレクトを行っているのか。

年間行事として決まっているものは、早い段階から情報共有できると思う。

放送予定も幅広く告知しないと区民は知る由もないので、SNS や主催者のホームページなどを活用していくべきである。

##### 事業者

地域の大きなお祭りやイベントは、地域プロデューサーの松永が事前にリストアップして、番組担当へ情報提供は行っているが、開催時期が重なっているなどの諸事情により、頻度は少なくなっているのが現状である。

昨年は、JC 主催の「秋のフェスティバル」を 9 月に東京生テレビで取り上げた。

4月1日に行われる「さくら SAKASO 祭り」も東京生テレビで放送予定である。

番組の放送周知は根本的な課題であり、より多くの視聴者を番組で取り上げて裾野を広げているが、現状は限られた状況である。今後はご指摘の通り、SNSなどを活用し工夫を凝らした周知を行っていききたい。

#### ■番組の二次利用について

##### 委員

放送した番組の二次利用の原則を決めるべき。「お店しま SHOW」であれば、放送映像をお店の宣伝に利用してもらい、その対価として、店内にジェイコム の営業チラシを設置してもらうなど、有効活用をしていくべきである。

今は、YouTube などを活用する方法もあるので、地域の魅力を広く発信してほしい。

##### 事業者

従来のテレビ放送に加えて、スマホやタブレットなど他媒体の活用を検討している。

#### ■専門チャンネルとど・ろーかる番組のコラボレーションについて

##### 委員

以前から提案してきたが、ようやく J:COM テレビで、専門チャンネルとど・ろーかる番組のコラボレーションが出てきた。本来、J:COM チャンネルがど・ろーかるであるため、番組のジャンルは問わず専門チャンネルで北区が取り上げられた時は、J:COM チャンネルでもコラボレーションを試みてほしい。

##### 事業者

前向きに検討していきたい。

#### ■SNS の積極的な活用について

##### 委員

北区広報課でも、SNS を活用した情報発信に力を入れ始めている。

北区は高齢化率が高いため、紙媒体も重要だが、若い世代向けへの情報発信ツールとしては有効である。まちづくりの問題など北区として伝えたい情報を J:COM が取り上げた場合など、北区の媒体を使って区民に知らせることもできるので、お互いの連携を密にとっていききたい。

##### 事業者

これから更にコミュニケーションを深めて連携を図っていききたい。

## ■地域の安心・安全のための情報発信について

### 委員

熊本地震の情報を地域メディアである J:COM で発信し続けたことは心強く感じる。

今後、いつ東京にも同様の災害がきてもおかしくない状況なので、防災情報サービスに加えてコミチャンでの対応も期待したい。

### 事業者

現在、気象警報、地震発生時には、緊急 L 字に切り替わり行政からのお知らせや、テロップで地域の震度情報などが掲出されるシステムが構築されている。いざという時のために、日頃から体制を整えておきたい。

## ■地域の視聴動向調査について

### 委員

コミュニティチャンネルでは、様々なジャンルの番組を放送しているが、視聴者のニーズ調査などの分析は行っているのか。

### 事業者

番組毎のカテゴリは行っており、視聴ターゲット層に合わせた番組制作を実施している。

以上